

NAFTAについての在加日系企業の意見

1 3国間での自由な経済活動の重要性

(1)北米の民間セクターの相互依存が深まる中で、NAFTAは大きな役割を果たしている。すなわち、北米での自由な貿易、人の移動は、米国を含む北米地域に投資してきた日系企業のビジネス活動を促進し、カナダ、米国、メキシコの経済発展に貢献している。

(2)在加日系企業は、NAFTA再交渉に当たっては、カナダ、米国、メキシコの3ヶ国間の自由な経済活動が阻害される方向とならないことを希望している。

2 原産地規則の厳格化への反対

製造業を中心に、日系企業はビジネスの現地化を促進しており、例えば、カナダの完成車の部品の大半は北米で生産されている。しかし、中小企業を含めて、カナダに投資した企業は多様なビジネスを行っている中で、原産地規則が厳しくなった場合、企業に新たなコストが発生し、北米のサプライチェーンに留まることが難しくなる企業が出ることを考えられる。また、原産地規則の厳格化により、投資先としての北米の魅力が低下することとなる。このため、在加日系企業は、原産地規則の厳格化には反対である。

3 人の移動、規則の調和の促進

(1)北米経済が一体化する中で、北米の工場、営業事務所、研究開発拠点の間での知識や技術の共有の必要性が拡大している。在加日系企業は、技術者、専門家が円滑に移動できることは北米全体の経済成長につながると確信している。また、北米地域の観光促進の観点からも、人の移動の円滑化が求められている。NAFTA再交渉を通じて、モノの移動の一層の円滑化に加え、人の移動の円滑化が進むことを期待している。

(2)安全規制、知的財産制度、環境規制等について、カナダ、米国、メキシコの間で調和を推進することで、北米地域全体の経済発展に寄与すると考えられる。NAFTA再交渉を通じて3ヶ国間の規則の調和が進むことを期待している。

4. その他（バイアメリカン、新たな課税）

(1)政府調達及びインフラ整備の自由化は、投資先としての北米の魅力を高めることとなる。バイアメリカンの推進により、カナダに投資した企業が米国の政府調達及びインフラ整備から排除されることとなれば、カナダの投資先としての魅力が減じられることとなる。

(2)国境をまたぐ取引に対して課税をすることは、一体化が進んでいる北米産業の競争力をそぐものである。特に、新たに国境調整税が課せられた場合、石油・天然ガス分野をはじめとするカナダの産業の国際競争力に悪影響があると考えられる。このため、国境をまたぐ取引に新たな課税が行われることを支持しない。